



2019年度スタート!



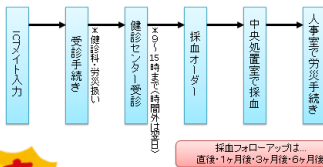
新年度がはじまりました。今年度も感染管理活動にご協力のほどよろしくお祈いします。毎年恒例となりました新入職員へのオリエンテーションや研修ですが、今年度は新たな取り組みを実施しました。これまでの研修は講義形式で行っていましたが、今年度は**中津オリジナルのガイドブック**を用いて事例(問題)の答えを導き出す**グループワーク形式**での研修を行いました。実際に研修で出題された、感染管理に関わる事例の一部をご紹介します。(感染管理室 川口尚子)

問:久しぶりの採血業務に緊張して、採血した後の注射針が自分の手に刺さってしまいました。あなたはどのような対応をおこないますか?

- ★以下のフローに従い対応してください。
- ★必ず曝露源の感染症の有無を確認してください。当院では**過去3ヶ月以内の検査データを有効**としております。

血液・体液曝露時の対応

- >石けんと流水で十分洗い流す
- >所属長に報告



- 当院の**血液・体液曝露件数は増加傾向**です。
- 針のリキャップは禁止。針を使用する処置の際は針廃棄容器を携帯する。
 - 安全機能付き器材は抜針時に作動させる。
 - 採血や点滴、抜針時には必ず手袋を装着する。
 - 血液や体液が飛散する可能性がある処置の際は、ゴーグルを装着する。
- 一人一人が決められた手順やルールを守り、ご自身の感染防止に努めて頂きますようお願いいたします。

麻疹・風疹・ロタウイルス感染症



3月に引き続き麻疹、風疹を取り上げます。まず**麻疹**について、大阪府内の麻疹患者発生数は、2019年第1週から第12週(3月18~24日)までの累積の患者報告数は116名となり、全国の患者発生数(342)の3分の1となっています。大阪府内の患者発生数は、3月に入って減少がみられていましたが、第12週は6例と再び増加しました。現在の麻疹患者発生地域は、豊中市、吹田市、大阪市北部であり、当院のある大阪市北区内でも麻疹発症者が3月下旬に受診した医療機関が存在しています。今や麻疹は主に成人が罹患する感染症となっており、大阪府内の麻疹患者発生を年齢群別に見ると、**最多は30歳代**であり、次いで20歳代、10歳代、40歳代の順となっています。当院にもいつ麻疹発症者が受診してきても不思議ではない状況です。過去の麻疹の流行例をみると、3月までくすり続けていても、4月以降に患者発生数急増している例は少なくありません。病院の、特に外来・救急関係者の皆様、麻疹に対する警戒の継続が必要です。

次に**風疹**です。第12週までの大阪の風疹の累積報告数は92例であり、昨年の同時期の累積報告数が0であったことと比べても状況は全く異なっています。2018年の関東地方を中心とした風疹の流行はまだ継続していて、**2019年は大阪を含めた関西地方にも流行が広がってきています**。大阪府内でもこれまでにコンスタントに患者発生が見られていて、その勢いは衰えるどころか、今後さらに強まっていく可能性があります。2013年に匹敵する本格的な流行となると、風疹発症者が日常的に当院を受診することが予想されますので注意が必要です。

最後に**ロタウイルス感染症**について、近年の乳幼児に対するロタウイルスワクチン接種の増加により、患者数は減少がみられていますが、近年、**流行のピークは4月後半から5月頃となる場合が多く**、患者数はまだこれから増加していくものと思われます(図)。ワクチン未接種の児が罹患した場合には、重症化して入院を要する場合も珍しくありませんので、特に乳児・幼児に対する医療、保育等に関わっている方々は、これからのロタウイルス感染症の流行情報にご注意ください。(感染管理室 安井良則)

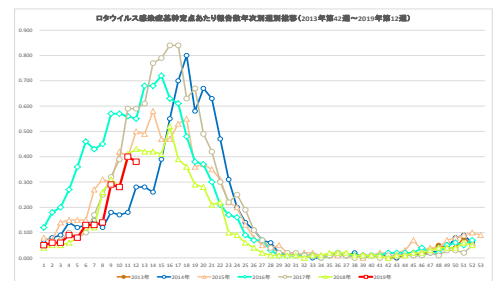


図. ロタウイルス感染症の基盤定点当たり報告数年次別週別推移(2013年第42週~2019年第12週)(国立感染症研究所ホームページ: <https://www.niid.go.jp/niid/ja/data.html>より)